

山口県知的障害者福祉協会 新入職員研修に参加して

2日間の研修を終えてまず、研修に参加させて頂けたことに感謝したいと思います。自分も学園に勤務して3年目になりますが、入りたての頃のように今一度初心に立ち返り支援をしていかなければという気持ちになりました。

自分がこの研修で一番印象に残ったのが、「ご家族の思いを聴く」というお母様と双子の兄弟が会場に来られ、生まれてから今現在までのお話をパワーポイントを使いながら大変な時期、とても楽しかった家族旅行の思い出、苦悩や葛藤があった思春期などお話しして頂きました。色々なお話しを聞く中で発達障害者の方は、視野が80度（上下左右）くらいしかない、体幹が弱く姿勢を維持することが難しい、聴覚が過敏なので就寝時は常に耳栓を使っている、時間の見通しが立たず気が済むまで一つのことに打ち込む、光に弱い為常にサングラスが必要、季節によって体調が変化するなど、自分には全く想像がつかないことばかりでした。

でもこれらの障害と上手く付き合い、ご家族で笑いを交えながらお話しをされている姿を見ると逆に自分達が元気や勇気をもたらしたような気がします。最後にご家族から支援員に伝えたい事で、発達障害者だからと思わずに一人の人間として接して欲しい、良いことをすればしっかり褒めて、いけない所はきちんと正す。なぜそういった行動をとるのか、最後まで話しを聞いてあげることが大切。お母様からは支援員は彼らの人生に必要な存在であり、親亡き後、安心して暮らせるよう助けてほしい。子ども達の笑顔が救いになっていきますと。ただ自分達支援員にも気を使って下さり、「過去に支援員の方が健康を害される姿を何度も見てきているので、この支援員をされている方をとても尊敬します。まず皆さん自身のことを大切にして仕事を頑張ってください。」と、とても温かいお言葉を頂きました。自分達支援員が必要とされていると言われ、とてもやりがいのある仕事だなと思うと同時に、今一度気を引き締めていかないといけないと思いました。

新入職員研修の始めに、山口県知的障害者福祉協会の古川英希会長が「障害のある人を支援する」というテーマでお話しをされ、もしかしたら自分自身が障害者になっていた可能性がある、笑顔が絶えない利用者として職員であってほしい、探求心を持って利用者へ接しマニュアル通りではダメと言われていたことがとても印象に残っています。まず利用者さんとの信頼関係を築き、一人の人として向き合うことが大切だと思いました。

また、ひかり苑施設長の國澤宗巖研修委員長は「あなたは何を目指すのか」とテーマでお話しをされ、まず目標（ビジョン）を持って仕事をしてほしい、向上心のない職員は利用者さんの不幸に繋がり、最後のしわ寄せが利用者さんになってしまう、プロ（経験豊富）になればなるほど謙虚さが必要、利用者さんは言葉を発せなくても職員を信頼している、あなたに出会えて良かったと思って頂ける仕事を目指す、組織の中で働いていることを十分理解し、職員間の報告、連絡、相談は利用者さんをサポートしていく上で最も重要なことであるなど福祉感を持って働こうとアドバイスを頂きました。どの仕事にも言えることですが、目標を持って仕事をしないと壁に当たった時に自分自身を振り返ることができないと思うので改めて目標の必要性というものを実感しました。

第2成人部の中村孝司さんも「入職時を振り返って」ということで、過去に新入職員研修を受講された方代表で発表されました。とても3年目とは思えない落ち着きぶりで他の施設の職員もベテランのようだと感心している姿がとても印象的でした。

毎日の支援の中で利用者さんと向き合う時は相手の名前を呼んであげて、その利用者さんの目を見てしっかりと向き合うこと、分からないことや疑問に思うことがあれば、上司や先輩方に聞いて情報の共有をしていくこと、そして何よりも一つのチームとして支援していく上で報告・連絡・相談が最も大切だということを主に新入職員にお話しされていました。

これから不安なく働くために新入職員の疑問・質問に答える「パネルディスカッション」では他の施設の職員も同じような悩みや経験を持っていて共感できる所はたくさんありました。研修委員の方々からは、失敗を恐れず経験を積み重ねてこれが正解という答えはないと思うので自分の引き出しをたくさん増やしていってもらいたい、まず利用者さんを知ることから始めて、見守り時はよく観察をし、職員が勝手に利用者さんとの線引きをしてはいけない、とりあえず利用者さんに振り回されてみるのも一つの手では？そうすると利用者さんのこれまでの背景や生き様を知ることができるかもしれないというアドバイスをたくさん頂き今後支援をしていく上で非常に参考になりました。

最後のグループワークでは、これまで利用者さんと関わった中で心に残った体験、進んで行動してみたことをテーマに挙げてたくさんの職員と意見交換を行いました。利用者さんから挨拶されることが心に残っているということが多く出ていました。改めて挨拶というのは非常に大事なものだということを認識させられました。利用者さんと目を見て挨拶することにより、少しずつではあるが信頼関係ができ、次第に心を開いていってくれるのではないかと、言葉を発することが出来ない利用者さんには手を握ってみると何らかの反応があるのではないかと思います。利用者さんのほんの少しの出来事が職員の励みになることもあるのでこのグループワークはとても意味のあるものでした。

これから生活支援員として仕事をしていく上で、常に初心を忘れず一人の人として向き合いお互い笑顔で過ごせるように寄り添っていけたらと思います。時間はかかるかもしれませんが、一つ一つの課題がクリアできるよう職員間とも情報の共有をしながら、今後は後輩の指導などにも携われるようスキルアップに励んでいきたいと思います。

鹿野学園 山田 勝雄